

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900033&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さん一人ひとりの希望に合わせたドライブに出掛けるなど個別支援に力を入れています。 ・役割を持つことで、生き甲斐を持ち、笑顔で明るい雰囲気の中で生活を送れるよう努めています。 ・地区の民生委員さん、各ボランティアさん、地域の方々との交流を積極的に努めています。介護予防教室や市社会福祉推進協議会の講師を務め、認知症介護の理解に努めています。 ・職員は、施設内研修会、岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会など参加し、個々の介護力、レベルアップに努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症にとらわれず、利用者の人格を尊重し、日々のケアにおいて利用者を支援することを意識しながら対応している。「利用者は鏡である」との所長の信念のもと、利用者や職員の明るい話し声が一日絶えることなく聞こえている。地域との関係も良好で、避難訓練の協力や、紙芝居・お茶・昼食作り・大正琴等の各種ボランティアの訪問が定期的に継続している。また、研修生の受け入れや、介護教室、地区主催の勉強会の講師を務めるなど地域貢献に努めている。</p> <p>最高齢の99歳の利用者を「私たちのお手本」と話される利用者もおられ、お互いに支えあい、尊重しあいながら過ごされている様子が伝わってきた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在の理念は、掲示場所が分かりづらい、見えにくいとの意見があった。また、職員が増えたことにより、グループホームの理解に努めるとともに、理念について話し合う機会を設けていく。	職員全員で理念を作り上げ、普段目につきやすい玄関、事務所、トイレに掲示している。今後、2ユニットに増設される予定があり、職員も増えるので、理念を具体化させるための意識づけは、今後必要な取り組みである。	内容的に大変申し分のない理念だが、文章が長いこともあり、ご利用者・ご家族、職員が、よりわかりやすい簡潔な表現にするため職員とともに話し合いを持つ予定があるので、更なる理念の展開を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんの継続的な訪問、地区の民生児童委員さんと情報交換、交流を積極的に行っている。回覧板を利用者さんと一緒に回すなど、日常的に交流できるよう努めている。	民生委員さんがドライブなど外出支援時に積極的に協力して下さり、地域の情報も提供していただいている。また、お茶会・大正琴・紙芝居など定期的にボランティアの訪問が継続されている。地区会に加入しており、地域の一斉清掃には職員が参加している他、運動会区民交流会(子供たちも含めて)によるジャンボ紙芝居、餅つき等に参加している。今後は事業所で開催の敬老会に招待したり、庭を提供しながら、地域との交流に努めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室や地区主催の勉強会の講師を務めるなど、積極的に参加するよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの介護度状況、行事の計画、報告だけでなく、保険者の情報提供、ご家族、利用者さんと対話できる機会に努めている。	2月には市職員の協力を得て運営推進会議を土曜日に開催する事で、多くの家族が参加できるよう働きかけていく予定である。また、運営推進会議の中で、避難訓練時にホームの中の様子が外に伝わらないとの意見もあり、スピーカーを外に設置する予定となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員、介護保険課、市社会福祉事務所職員の訪問を通して、情報交換を行っている。震災時の対応についても、連携強化に努めた。	介護相談員は年に2回訪問し、利用者と交流している。また、運営推進会議に市役所から社会福祉課職員が参加している。震災時には安否確認の訪問があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は実施していない。年に数回、ケアマネジメント委員会を通して、他事業所との情報交換を行っている。その内容を、職員だけでなく、ご家族等にも周知徹底に努めている。	玄関に設置されているセンサーは、利用者が安定して生活されており、特に必要を感じていないため切っていた。スピーチロック等にも配慮した支援が行われている。母体施設と合同で年2~3回事例研修、事故報告、事故分析など話し合い弊害についての理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内学習会を実施。虐待についての基礎知識を理解するよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内学習会を実施。今後、金銭管理ができなくなった場合を想定し、社会福祉協議会とともに、利用者さん、ご家族と意見交換できる機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書、契約書の理解に努めている。説明者に限らず、新任職員を交えて契約書の勉強会を実施していきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『明生園福祉オンブズマン制度』や、投書箱の設置の説明。また、面会時や電話、メール等でお話しやすい環境づくりに努めている。	入浴時や居室で、個別に利用者からお話を聞く機会を大切にしている。 ご家族は面会時に職員に相談や意見を話している。また、メールや電話で情報交換が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者会議、経営会議を通して、職員の意見を反映できる機会をつくっている。また、不定期ではあるが理事長に来所してもらい、直接お話できる雰囲気づくりに努めている。	職員の意見により、グループホームの車を4ドアに変えてもらっている。新設されるグループホームの内装等も職員の意見が多く取り上げられている。職員間の意見は母体法人との経営会議(3カ月に1回)や代表者会議(年2回)にはかられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長、正職員が、職員の相談役を務め、職員の能力、意見を把握し、理事長へ相談できる機会を設けている(個別・会議など)。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の職員の問題意識を確認するとともに、各種研修会(岩手県GH協会定例会やキースキル講習など)に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	両磐ブロックでの定例会などで、情報交換に努めている。他グループホームの見学をし、職員間の交流ができる機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム内での生活の様子を伝えるとともに、事前に見学を勧め、現在、入居されている利用者さん、職員と交流できる時間をつくるよう働きかけをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームについて説明し、見学を通して、現在の雰囲気を感じていただくよう努めている。困っていること、不安なことなどについても、できるだけ詳細に情報交換できるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の話に耳を傾け、些細な行動にも目配り気配りができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して、生活を支える立場に立ち、ご本人のできる役割を探し、一日でも早く馴染んでいただけるよう努めている。利用者さんが全員、女性で家事手伝いを通してお互いの関係を築くよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、ゆっくりお話できるよう居室へ案内するなど、安心できる雰囲気づくりに努めている。また、毎月『ほっとスマイル通信』を送付し、近況報告を通して、関係継続に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚だけでなく、地区の民生委員さん、各種ボランティアさん、理美容院の訪問の働きかけに努めている。また、ご自宅へ一時帰宅できるよう支援している。	利用者の希望により月1度くらい、2名の利用者が帰宅している。また、以前利用していた利用者のご家族と利用者が親しくなり、現在もそのご家族の訪問が続いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢層も幅広く、利用者さん同士で声掛けや見守りをしていただいている。また、震災を機に利用者さんが増えたことにより、互助の関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体施設への申込相談や、面会を通して前利用者さんの情報交換を行っている。また、増築工事を通して大家さん(前利用者さんのご家族)とも情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他利用者さんとの関係を損なわないように、入浴時や居室でお話ができるような雰囲気づくりに努めている。	ご家族から情報提供していただいている。日ごろから利用者の好む話や、興味を持てる話の把握に努めている。また、職員の配慮により、利用者間の衝突が起こらないよう支援している。1対1のコミュニケーションを大切に、嫌なことは繰り返さないよう心がけている。意思表示困難な利用者に対しては家族の面会時に把握し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や日常生活の会話を通して、情報収集に心掛けている。また、ご家族の面会などを通して、これまでの生活についての情報交換に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画作成前、体調の変化に合わせて、アセスメントを実施。現在の心身の状態の把握、必要と思われる支援について確認する機会をつくっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスを通して、利用者さんの情報交換に努めている。ご家族の面会が少ないため、『ほっとスマイル通信』などを通してご家族が話し合いできる雰囲気づくりに努めている。	担当者が利用者の様子をまとめ、カンファレンスで職員間で話し合いを持っている。また、必要な時には電話や面会時に家族と話し合いを持ち、意見や要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別ケースなどの見直しを行っている。日誌以外、職員連絡ノートを活用し報告・連絡の徹底に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内の生活だけでなく、ご家族の協力をいただき外出、外泊の実施。また、外出頻度が少ないため、実習生さんやボランティアさんの受入を積極的に行い、外部接点を継続できるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームほっとスマイル

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さん一人ひとりに合わせた理美容サービスの実施や、各種ボランティアさん(紙芝居、お茶、昼食づくり、大正琴)の受け入れを通して、ホーム内での生活を楽しむよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の主治医との関係を継続しつつ、心身状態に合わせ、ご本人、ご家族と相談できる体制を整えている。平成22年度、歯科衛生士会のモデル事業を通して、歯科医師の住診が実現した。	利用者全員がかかりつけ医を利用している。利用者のうち3名は服薬がなく過ごされている。また、家族対応で通院されている利用者が3名いるが、その時は通院時のチェックでバイタルや日ごろの体調等を伝えている。他の利用者は職員対応で受診している。定期健診は母体施設で行われていた。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の勤務であるため、引き継ぎを密に出来るよう心掛けている。連絡ノートを活用している。勤務日に通院介助をお願いし、主治医との連絡調整役を担っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホーム内の生活の様子を伝えるとともに、病院関係者(主治医、看護師、ソーシャルワーカーなど)と報告・相談・連絡に努め、病状の経過、退院後の注意点など情報交換をしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族アンケートを実施したり、都度、個別に相談できる体制を整えている。	契約書の中で看取りに関する指針が示されている。日ごろの日常会話の中で利用者の希望など汲み取るよう支援している。重度化に向けての話し合いは今後の課題としている。今年は家族アンケートは実施していない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内勉強会を実施。マニュアル等を見直す機会を設けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(日中・夜間想定)を実施。地域住民やご家族の協力体制、情報共有に努めている。また、母体施設との連携の強化も図っている。	年2回、地区から7名、ご家族2、3名の協力で避難訓練が行われている。訓練実施の際は、地域に回覧板で案内し、自主的に参加して頂いている。地域の方々には誘導や見守りをお願いしている。震災後母体施設との連携や備蓄の見直しが行われている。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生まれも育ちも生活歴も違う利用者さん。個々に応じた声掛け、接遇に努め、日頃から見直す機会を設けている。	利用者の生活歴を尊重し声掛けをしている。利用者の気持により添えるよう支援している。利用者個々に適した言葉を選択し、声掛けが行われていた。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間や居室で過ごしている時間、個別ドライブなどを通して、ご本人がリラックスできる場で話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中のおやつ時間を通して、利用者さんとゆっくりお話しできる機会をつくっている。レク活動なども、個々の要望に応え、強制的に実施しないように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、整容介助。入浴時の着替えを選ぶなど日常生活を通して、身だしなみの支援を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの嗜好を確認しながら、準備(調理補助)、盛付、配膳、下膳、茶碗洗い、拭きまで利用者さんを中心に役割分担をしている。月一の調理ボランティアさんや母体施設の行事(お楽しみの日、合同芋煮会など)を楽しみにしている。	ボランティアが月1回、健康に配慮した食事を作っている。誕生日にはご本人の希望する料理を作りお祝いをしている。出前や外食なども楽しみにしている。利用者も盛り付けや片付けと一緒に進んでいた。献立は週3日買物をするので、その日の材料を見て担当者が作っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分摂取量、月一の体重測定など、健康管理に努めている。水分量が少ない場合は、好みのものを個別に用意するなど工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	平成22年度に実施した歯科衛生士会のモデル事業に参加し、口腔ケアについて学ぶ機会をいただいた。歯科医師の往診も実現し、情報交換に心掛けている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームほっとスマイル

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを通して、定期的に声掛け、誘導、サインを見逃さないよう注意している。留置カテーテル装着の利用者さんに対しては、清潔に保つよう心掛けている。	利用者の多くはほぼ自立している。声掛けが必要な利用者は1、2名いる。留置カテーテルの利用者の排泄希望にもご本人の気持ちを尊重し対応している。尿失敗がある時は、周りの利用者に応付されないよう配慮してトイレ誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を中心に個別に見直し、内服薬に頼らず、センナ茶、氷水、牛乳などの提供を職員間で情報交換に努めている。また、ご家族と相談しサプリメントを取り入れている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の予定を組み、ご本人の希望(回数、時間帯、担当など)を優先とした支援をしている。実習生さんが介助に入る際も、個々に承諾をいただくよう心掛けている。	週2~3回、午前・午後の希望をとって入浴を支援している。半分の利用者は同性介助を希望し対応している。入浴可否のバイタルは、看護師からのアドバイスやその日の状態の変化等により支援に努めながら清潔保持と安眠につなげている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	震災後、相部屋の利用者さんも居るが、昼食後の休憩や夜間、安眠できるよう心掛けている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬局と取引しており、処方箋のFAX送信から配達まで行っている。その際、内服薬についての注意点など情報交換を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	画一的にならないように、個別に応じたレク活動や家事手伝いを支援している。日常生活の中で、笑顔が自然に引き出せるような雰囲気づくりに努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院介助だけでなく、買い物、自宅訪問、個別ドライブを実施。ご家族の協力で外出、外泊を実施している。ドライブコースを決める際も、利用者さんのご要望を取り入れるよう心掛けている。	利用者の希望によりドライブのコースを選択している。毎年、猊鼻溪の舟下りの写真がホールに飾られていた。母体法人からバスを借り、民生委員さんやご家族を誘いドライブに出かけたり、9月には利用者個別のドライブが行われている。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームほっとスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんと一緒に買い物に行った際や新聞の集金の時に、ご自分からお支払いできるよう働きかけをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、電話を掛けたり、年賀状などご自分で準備できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	震災後、節電に心掛け風鈴を掛けるなど季節感を取り入れている。ホール内の壁に、四季折々の貼り絵など利用者さんと一緒に制作している。	ちょうど訪問時はクリスマスが近いこともあり、クリスマスの飾り付けがホールいっぱいになっていた。利用者が折り紙を折り、職員がリースや白鳥などを組み立てた様子で、職員が上手に組み立てたと利用者から労いの言葉が聞かれた。小上がりは段差がなく、炬燵とソファがあり自由に休まれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の落ち着く居場所を確保しており、利用者さん同士がトラブルになる場合は職員が間に入って、安心できる居場所づくりを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用申込や契約時に、家具の持ち込みが自由な点など説明している。ご自宅に近い環境づくりのため、布団、ベッドなど、好みに合わせた支援をしている。	ベッドやテレビ、整理たんすなど、利用者の希望により持ち込まれている。利用者の居室前に写真が掲示され、ご本人らしい居室環境になるよう支援していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具業者さんのご協力で、来所していただき杖の調整をし、安心した生活が送れるよう支援している。トイレ、居室前に表札、ご自分の写真の掲示するなど、見当識に合わせた支援を行っている。		